

2019年（令和元年） 11月11日 月曜日

大和合金

大型鍛造プレス初導入

安全・生産性が大幅向上

特殊銅合金メーカーの大和合金（本社＝東京都板橋区、萩野源次郎社長）は、グループの三芳合金工業（本社＝埼玉県入間郡三芳町）の本社工場に1500キロボルト鍛造プレス機を導入する。大型鍛造プレスの導入は初めてで、従来鍛造に使用しているエアハンマーと比べ生産性や安全性が大幅に向上する。プレス機の購入費用と、導入に伴う既存設備の一部撤去や建屋の改修費用を合わせた設備投資額は数億円。2020年夏ごろの稼働開始を予定している。

導入するのは三菱長崎機工製の2柱式ブルダウン型1500キロボルトプレス。同社は現在、

航空機の軸受けや潜水艦、発電機モーターなどの大型鍛造部品向けの加工を500キボルトか

ら2トクラスの4基のエアハンマーで行っているが、プレス機は生産性が数倍高い。

プレス機は750キボルト500キボルトのエアハンマーの跡地に設置するため、現在撤去作業を

進めている。500キボルトの設備は工場内で移動して引き続き使用。設置完了後はプレス機1基とエアハンマー3基体制となり、鍛造能力が倍以上に高まるとみられる。

大型投資に踏み切ったのは、生産性の改善に加え安全性向上や事

業継続計画（BCP）の強化を図る目的もある。プレス機はコントロールルームで操作できるため、従業員が設備に近づく必要がなくなる。騒音対策や熟練度の点でも、プレス機はメリットがある。

また、現在はプレス機を持つ協力会社に外注委託している加工について、自社でもプレス機を設備することで不測の事態への対応力が高まる。萩野社長は「外注をお願いしている会社とは今後も手を携えながら、これまでできなかった仕事を取りこんでいきたい」と語る。